

慢性腎臓病患者における腎機能の変動と 心血管疾患発症および死亡リスクとの関連

慢性腎臓病（chronic kidney disease : CKD）患者において、腎機能の低下が、心筋梗塞や狭心症、心不全、脳卒中などの心血管疾患（cardio vascular disease : CVD）の重大な危険因子であることは明らかとなっている。しかしながら近年では、CKD 患者において腎機能の低さだけでなく腎機能の変動の大きさも CVD 発症および死亡リスクの予測因子となる可能性が示唆されている。これらの背景をふまえ、課題研究では日本人 CKD 患者のコホートデータを用いて解析を行い、日本人の腎機能の変動と心血管疾患の発症等のイベントとの関連について調べることにした。

まず CKD 患者の併存疾患別およびステージ別に、比例ハザードモデルによりイベント発生リスクと関連する因子を調べた。さらに観察開始時点～イベント発生（あるいは打ち切り）時点までの推算糸球体濾過量（estimated glomerular filtration rate : eGFR）の経時的変化をパターン分類することにより、腎機能の変動パターンとイベント発生のリスクとの関連も調べた。

また、eGFR の変動腎機能の変動および経時変化パターンに関しては、その変動要因となりうる因子についても検討を行った。